

4 MICE推進のための国立京都国際会館における 5,000 人規模の多目的ホールの整備

(財務省・国土交通省・観光庁)

1 現状と課題

国立京都国際会館は、昭和41年に我が国最初の国際会議場として設置されて以来、数多くの国際会議の成功を支えてきました。

しかしながら、近年、国際会議の規模の大型化・形態の多様化の傾向が顕著となり、会議の開催に当たり、大型会議場、ワーキングスペース及び展示・広報等のスペースを備えた多目的な施設であることが求められています。スペース不足のために他国開催となった例も多く、開館から40年以上を経た当会館の施設規模及び機能は、十分であるとは言えない状況にあります。

2 MICE*推進のために

シンガポール、中国等のアジア諸国をはじめ世界各国では、こうした会議の大型化・多様化に対応できる施設が整備されており、5,000人規模が世界のスタンダードです。

日本文化を世界に発信する拠点として最もふさわしい都市・京都に位置する国立京都国際会館への5,000人規模の多目的ホール整備により、大規模国際会議をはじめとするMICEのより強力な誘致が可能になります。これは、国益の観点からも欠かせないものとして提案します。

3 提案事項

大規模国際会議をはじめとするMICE推進のための、国立京都国際会館への5,000人規模の多目的ホールの整備

所管の省庁課：財務省（理財局国有財産業務課） 国土交通省（大臣官房官庁営繕部計画課）
観光庁（総務課）

京都市の担当課：総合企画局 国際化推進室 副室長 久野育 TEL 075-222-3072
産業観光局 観光部 観光振興課長 横井雅史 TEL 075-222-4133
産業観光局 観光部 観光振興課 国際事業担当課長 柿沼宏明 TEL 075-222-4133

現 状

◆ 国内外の主要な国際会議場の状況

国名	会議場名	大会議場 収容人数
日本	国立横浜会議場(パシフィコ横浜)	5,000名
日本	東京国際フォーラム	5,000名
アメリカ	ワシントン州立会議センター	7,500名
ドイツ	ベルリン国際会議センター	5,008名
シンガポール	シンガポール国際会議・展示場	12,000名
中国	香港会議・展示センター	8,000名
韓国	キェックス会議・展示センター(ソウル)	7,000名

国立京都国際会館 (S41年～)



外観



大会議場(1,840名収容)

○ 世界を代表する国際会議場の大会議場は、最低約 3,500～5,000 名収容可

課 題

◆ 国立京都国際会館のスペース不足により、開催が見送られた会議の事例

年度	国際会議名	要請スペース	開催地
14	国際感染症学会	3,000人程度の会議スペース、4,000㎡の展示場、10の分科会会場	シンガポール
14	第14回世界心臓学会議	5,000人規模の会議スペース、1,000人収容のホール(3箇所) 100～200人収容の会場(10箇所)	オーストラリア
25	国際小児科学会	5,000人程度の会議スペース、12,000㎡の展示場	オーストラリア

多目的ホールを新たに整備することによる効果

- 国立京都国際会館のイベントホールは展示スペースとしては極めて狭い。
(3,000㎡)
⇒ 新設の多目的ホールを展示場として使用することで、展示スペース不足の改善を図ることができる。
- 国連本部などの国際会議場は中型会議場(500～1,000人収容)4室を有するが、国立京都国際会館の中型会議場は2室のみである。
⇒ 新設の多目的ホールを可動式間仕切りで2分割することにより、中型会議場2室として使用し、合計4室を確保できる。

※ MICE (マイス)

M:ミーティング(企業のミーティング等), **I**:インセンティブ(企業が従業員の表彰や研修などを目的に実施する旅行), **C**:コンベンション(国際団体、学会等が主催する総会、会議等), **E**:イベント/エキジビション(文化・スポーツイベント、展示会、見本市)